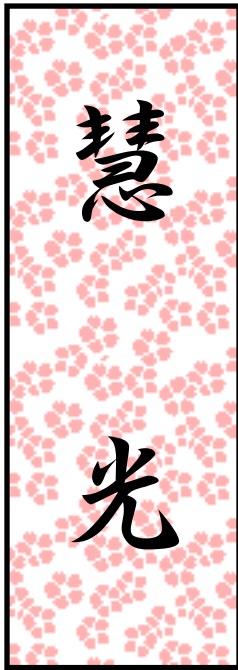




▲ 燦々と陽光に映えるピンクの桃 (4月8日撮影・12区古賀東にて)



金光寺寺報  
第214号  
発行所 金光寺  
宮崎県西臼杵郡  
五ヶ瀬町大字鞍岡  
5927番地  
☎ 0982  
83-2338

今月法語カレンダーのことば

眞実の信心は かならず 名号を具す

今月の法語は、親鸞聖人の主著『教行信証』の「信文類」からいただいています。「眞実の信心には、必ず名号を称えるというはたらきがそなわっている」という意です。

聖人は、ただひとすじに阿弥陀さまのはたらきによって、この私が仏と成らせていただく道を聞いていかれ、その道を明らかに示してくださいました。阿弥陀さまのはたらきは、このようにして人々を救うぞ、という願いにもとづいています。その願いこそが本願です。南無阿弥陀仏の喚び声として私のところへ至り届けられているのです。

「信文類」の前半では、本願に誓われている「至心・信楽・欲生」の三つの心について、ご指南が示されています。阿弥陀さまのお浄土に生まれ仏と成らせていただく、この正しき因は阿弥陀さまからふり向けられる信心一

つであると、聖人は聞いていかれました。そうであるにも関わらず、本願には「至心・信楽・欲生」という、三つの心が誓われています。なぜ三心の願いが発されているのか、聖人はこのことについて真剣に問い求められるのです。そして、阿弥陀さまのお心は、はかり知ることができないとしながらも、如来回向の一心（信楽）のところに、阿弥陀さまの眞実の智慧（至心）も慈悲（欲生）も具わっていることを願うために、三つの心として誓われているのだと受け止められるのです。

このほかにもさまざまな角度から、三つの心は一つの心におさまり、一つの心に三つの心が具わっていることが示されます。

(本願寺出版社刊「大乘」誌掲載 『月々のことば』より抜粋 転載)

仏事お休みのお知らせ

下記の日は緊急を除き、仏事は行いません。ご協力をお願いします。

- ◎ 4月 20日(土) 終日 / 26日(木) 午前中
- ◎ 5月 27日(月) 終日
- ◎ 6月 18日(火) 終日

2019年3月、次の金光寺門信徒の方がご往生なさいました。謹んでお悔やみ申し上げます。

- 2019年3月3日 満84歳 揚岡田 テル子様
- 2019年3月25日 満96歳 荒谷吉村 アキノ様

ホームページ開いています。

URL <http://konkouji.jp/>

4月8日現在アクセス数 87,442人

とた訪皇杯のの聞がはルケが行御覚持がだ間和... (A large block of vertical Japanese text, likely a calendar or a list of events, partially obscured by a watermark.)

仏教名言ノート

明日の朝に...

親鸞聖人が出家されたこと伝えられている青蓮院。その境内に聖人の童形像が建っています。出家得度されたばかりの聖人が合掌されている像で、その台座にこの歌が彫られています。(像と歌碑は日野誕生院にもあります)

伝えるところによれば、聖人九歳の春、伯父の日野範綱卿に伴われて青蓮院にいられたとき、慈円僧正が「今日日によし」といわれたところ、聖人はこの古歌を示された、といわれています。咲き続けるだろうと思っていた満開の桜も、突然の嵐にはかなく散ってしまつように、明日の日もあてにならない人生無常のことがわりを訴えている歌です。

聖人の深い決意に感動された僧正は、その夜、得度の式を行なわれたと、伝えられています。「本願寺聖人親鸞伝」の「出家学道」の段には、「門前の満開の桜」と「燭台の灯の中での剃髪」が描かれています。この歌の情景が伝わってきません。この歌は江戸時代末期に出版された『親鸞聖人絵詞伝』に出ている、と教えたいただきました。聖人の出家にはなくてはならない歌です。五月二十一日は、親鸞聖人のお誕生日です。(本願寺出版社発行 『仏教名言ノート』から) 辻本敬順著

任職ひとりごと